

令和 8 年度 第 1 回グループホーム部会

- 開催日時：令和 8 年 9 月 7 日 13:30～15:00
- 参 加 者：
 - － グループホームなかがわ苑（管理者兼ケアマネ、部会代表）
 - － グループホームスマイル家族（管理者兼ケアマネ、部会副代表）
 - － グループホーム那賀川たんぽぽ（管理者兼ケアマネ、部会副代表）
 - － グループホーム青葉園（管理者）
 - － グループホーム高砂（管理者）
 - － グループホーム花乃苑（管理者）
 - － グループホーム笑顔毎日（管理者）
 - － グループホーム無量寿（管理者）
 - － グループホーム双壽園（管理・ケアマネ）
 - － 阿南市在宅医療・介護連携支援センター（センター長・看護）
- 議事録作成者：阿南市在宅医療・介護連携支援センター

【要約】

令和 8 年度 第 1 回グループホーム部会では、緊急時対応に関する課題を中心に議論が交わされました。夜勤帯の職員体制、医療機関への情報提供（簡易問診票の作成）、緊急時マニュアルの改善と職員の不安解消が主要な議題となり、それぞれ今後の対応方針が確認されました。また、介護施設紹介サイトの利用における注意点、誤嚥・窒息時の対応、福祉用具の取り扱い、看取り介護の推進、地域連携と入居者確保についても意見交換が行われ、各施設が抱える課題と先行事例が共有されました。

【議題 1：夜勤帯における緊急時対応と職員体制】

- 要 点
 - － 夜勤帯（特に 1 人夜勤）に利用者の緊急事態が発生した場合、他の入居者への対応と救急搬送時の付き添いに関して職員の負担や不安が大きい。
 - － 各施設では、管理者への連絡、近隣施設やサブ職員への応援要請、ユニット間での応援体制などを取っている。
 - － 救急搬送時、必ずしも職員が同乗しなくても良いという「阿南市救急搬送ルール」の存在が再確認された。
- 決定事項：
 - － 救急搬送時に職員の同乗は必須ではないという現行ルールを改めて施設職員に周知し、状況に応じた柔軟な対応（情報提供のみで後追い、家族連絡等）を可能とすることとした。

- **懸案事項：**
 - 1人夜勤の場合、緊急時応援が来るまでの間の他の入居者への対応が物理的に困難である点。
- **対応予定：**
 - 各施設で夜勤帯の緊急時対応について、職員への負担軽減と適切な対応を両立させるための具体的なルール作りを検討する。

【議題 2：医療機関への情報提供（簡易問診票の活用）】

- **要点**
 - 緊急時受診時、医療機関に対して迅速かつ簡潔な情報提供が求められている。
 - 現行の情報連携シートや利用者個別の情報を都度準備している施設が多いが、緊急時は時間的余裕がない。
 - 医療機関側は、具体的な症状と発生状況が特に重要であるとの意見が出た。
 - 共通の簡易問診票があれば、職員の負担軽減と情報伝達の正確性向上につながるなどの要望があった。
- **決定事項：**
 - 阿南市在宅医療・介護連携支援センターが中心となり、医療機関（特に医療センター）に必要な情報項目をヒアリングし、各施設で利用できる共通の簡易問診票（情報連携シート）の作成を検討することとした。
 - 医師会とも連携し、統一的なルール化を目指す。
- **懸案事項：**
 - 緊急時において、問診票記入や情報収集の時間を確保することの難しさ。
- **対応予定：**
 - 阿南市在宅医療・介護連携支援センターが、医療センターと協力し、共通簡易問診票の必要項目について協議を進める。

【議題 3：緊急時マニュアルの改善と職員の不安解消】

- **要点**
 - 緊急時マニュアルを作成していても、職員がマニュアル通りに対応できるか不安を感じている。特に1人夜勤や医療的知識の不足が不安の原因となっている。
 - 救急車を呼ぶ判断基準が施設や職員によって異なる。
 - 研修内容を実践的なもの（AEDの実機使用など）にすることで、不安軽減につながる可能性がある。
 - 認知症の利用者の原因不明な怪我や内出血の場合、事故報告の困難さや職員の報告に対する抵抗感がある。

- **決定事項：**
 - 職員に対し、救急車を呼ぶことは「悪ではない」ことを明確に伝え、緊急時は迷わず救急搬送を要請できるよう判断基準を再確認する。
 - AED の実践的な使用方法など、実際の状況を想定した研修を各施設で積極的に取り入れることを推奨する。
- **懸案事項：**
 - 認知症利用者の原因不明な怪我に対する記録・報告の難しさ、および職員が報告をためらう傾向。
 - マニュアルにない想定外のケースへの対応。
- **対応予定：**
 - 各施設で緊急時対応の実践的な研修を計画・実施し、職員の自信向上を図る。
 - 原因不明の怪我や内出血について、職員が報告しやすい仕組み（例：気づきシートの活用、管理者のサポート体制）を検討し、事故報告の徹底と分析に繋げる。

【議題 4：介護施設紹介サイト掲載の注意点】

- **要点**
 - 大手介護施設紹介サイトに無料で掲載したところ、入居に至った利用者について後日高額な紹介料を請求されるトラブル事例が報告された。
 - 契約内容によっては、資料請求のみで紹介料が発生する権利が「無期限」で有効となるケースがある。
 - 紹介サイト経由と認識していなかった入居者についても、家族への問い合わせにより紹介料を請求される場合がある。
 - 解約申請への対応が遅い、または反応がない場合がある。
 - 人材紹介サイトでも同様のトラブルが発生する可能性がある。
- **決定事項：**
 - 介護施設紹介サイトや人材紹介サイトを利用する際は、契約内容（特に紹介料発生条件、有効期間、解約条件）を非常に慎重に確認し、安易な契約は避けるよう注意喚起する。
- **懸案事項：**
 - 意図せず施設情報が掲載されている場合の対応。
 - 求人難から無料掲載などに飛びついてしまうリスク。
- **対応予定：**
 - 各施設で同様のサイト利用時には、契約書を十分に確認し、不明点は契約前に解消する。
 - 問い合わせがあった場合は、安易な個人情報提供を避ける。
 - ケアマネジャー経由での紹介など、他の入居者確保策も強化する。

【議題 5：食事時の誤嚥・窒息対応】

- **要点**
 - － 食事時の誤嚥や窒息は、夜勤帯など職員が少ない時間帯に発生した場合、対応に不安を感じる。
 - － 窒息時は救急車到着までに時間がかかるため、迅速な初期対応（応急処置）が不可欠。
 - － 吸引機が施設にある場合とない場合があり、ある場合でも看護師職員不在時に使用できるか不明な場合がある。
- **決定事項：**
 - － 誤嚥・窒息時は、救急車を呼ぶと同時に、職員はパニックにならず、ハイムリック法や背部叩打法などの応急処置を速やかに実施することを徹底する。
 - － 施設に吸引機がある場合は、定期的な点検と、職員全員が使用できるよう実技を含めたシミュレーション研修を行う。特に、口腔吸引は誰でも実施可能であることを周知する。
- **懸案事項：**
 - － 職員が緊急時に冷静な判断と行動ができるか。
- **対応予定：**
 - － 各施設で誤嚥・窒息対応の実践的な研修を計画・実施する。
 - － 吸引機の有無や使用可否について確認し、職員への指導を徹底する。

【議題 6：福祉用具（電動ベッド等）の取り扱い】

- **要点**
 - － 電動ベッド、車椅子、歩行器、ポータブルトイレなどの福祉用具について、施設により施設負担（備品）と個人負担（レンタルまたは持ち込み）の対応が異なる。
 - － 個人負担の場合、介護保険適用外のため「自費レンタル」となる。
 - － 布団のレンタルを導入している施設もあり、職員の洗濯負担軽減、衛生管理、利用者の買い替え負担軽減に繋がっている。
- **決定事項：**
 - － 職員の負担軽減と利用者の衛生管理向上の観点から、電動ベッドや布団を含む福祉用具のレンタル活用は有効な手段であり、各施設で自費レンタルの導入や既存品の利用について検討することを推奨する。
- **懸案事項：**
 - － 自費レンタル費用の利用者・家族への負担。
- **対応予定：**
 - － 各施設で福祉用具の取り扱いを見直し、職員や利用者の負担軽減、衛生管理の向上に資する方策を検討する。

【議題 7：看取り介護の推進】

- **要点**
 - － 看取り介護を実施する上で、職員の精神的な抵抗感や不安がある。
 - － しかし、家族からは「住み慣れた施設で最期まで過ごしたい」という強い希望がある。
 - － 研修や勉強会を通じて職員の経験を積み、ご家族からの感謝の言葉を共有することで、職員の抵抗感が和らぎ、自信に繋がる事例も報告されている。
 - － 地域の信頼向上にも繋がる。
 - － 家族が途中で看取り方針を変える可能性も考慮し、普段からの密なコミュニケーションが重要。
- **決定事項：**
 - － グループホームでの看取り介護は、利用者の尊厳と家族の希望を叶える上で重要な役割を担うため、積極的に推進していくこととした。
 - － 職員の精神的負担を軽減し、適切なケアを提供できるよう、研修・勉強会の継続と医療連携体制の強化を図る。
- **懸案事項：**
 - － 職員の精神的負担へのケア。
 - － 家族の意思が揺らぐことへの対応。
- **対応予定：**
 - － 各施設で看取り介護に関する研修やガイドラインを充実させ、職員の不安解消と知識・技術の向上を図る。
 - － 家族とのコミュニケーションを密にし、看取りに関する合意形成を丁寧に行う。

【議題 8：地域連携と入居者確保】

- **要点**
 - － コロナ禍で停滞していた地域との交流を再開し、オレンジカフェや地域イベントへの参加などを通じて地域住民とのつながりを深めることが重要。
 - － ケアマネジャー向けの施設見学会を開催することで、グループホームの実情を理解してもらい、入居者紹介に繋がる可能性が高い。
 - － 他の介護サービス事業所（ケアハウス等）との間で、空き状況や入居者に関する情報交換を行うことが、地域全体の入居者確保に繋がる。
- **決定事項：**
 - － 地域連携を強化し、オレンジカフェや地域イベントなどを積極的に開催・参加することで、地域住民との交流を深める。
 - － ケアマネジャーを対象とした施設見学会を積極的に開催し、グループホームへの理解促進と入居者紹介を促す。
 - － 他の介護サービス事業所との間で、空き状況等の情報交換を継続し、地域全体での入居者確保を目指す。

- **懸案事項：**
 - － ケアマネジャーとの連携強化。
- **対応予定：**
 - － 各施設で地域連携活動を推進し、入居者確保に向けた取り組みを強化する。
 - － 次回部会でも情報交換を継続する。

【会議風景】

